

事後評価シート

(別紙1)

調査研究課題名	商業施設の立地が都市構造に及ぼす影響に関する研究 ～社会構造の変化過程における人口分布の変化の予測手法の確立に向けて～
担当者	主任研究官 森田真弘、研究官 馬場美智子、研究官 橋本亮
①当初目標と目標達成度	<p>本研究は、人口分布と大規模商業施設からの距離との相関関係に着目し、人口分布の変化要因を分析・考察することを目的としていた。分析・考察の結果、人口分布の変化に影響を与える要因として、商業施設からの距離との関係についてははっきりとした相関関係が認められなかったが、幹線道路や市街地整備、区域区分の変更等を含めた都市計画や都市政策が重要な意味を持つことを明らかにした。したがって、研究の当初の目標は達成したと考える。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>人口分布の変化の要因を明らかにするため、一般的には用いられた事例が少ない町丁目レベルの詳細なデータを用いて、学術的に確立された分析方法により定量的に分析を行うとともに、各都市の特性や状況を考慮するために GIS の活用、現地調査、ヒアリング調査等の即地的検討を行うことで、多面的な分析・検討から各都市で起こっている現象の背景について提示することができた。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>本格的な分析を行う前に住宅経済研究会で分析方法等について発表を行い、研究会メンバーから分析方法の妥当性や考慮すべき事項等について意見を得た。その後は、都市計画や都市経済を専門とする学識経験者を交えた研究会を所内に設けて検討を進め、特に、回帰分析の実施にあたっては、随時アドバイスを得ながら研究を進めた。さらに、事例分析では現地調査を行って実際に対象都市を視察するとともに当該都市の都市計画等担当者にヒアリングを行うことで、分析の精度を高めることができた。</p>
④成果と活用	<p>都市計画関連部局に配布するとともに、HP 上で公表し、希望者には報告書の配布をする。また、本研究の一部は、土木学会や土木計画学研究発表会にて発表を行った。今後、土地利用規制や市街地整備のあり方を検討する際に活用されることを期待する。</p>
⑤その他	